

掛塚に蒔いた種、芽生えたかな ～みんなと倶楽部・掛塚 五年の足跡～

最初の二年程は、旧津倉邸の草取りや樹木の剪定などを通して、廻船問屋の歴史や他地域での文化財を活用したまちづくりなどを学んでいきました。その中で、地域の人たちみんなが参加できる津倉邸を活用したイベントを開催したいという思いが膨らんでいき、三、四年目の、「いじやまいかけつか」の開催に行きつきました。津倉邸の公開見学会の他に、地元出身

「いじやまいかけつか」の開催

旧津倉邸が寄贈されたのは平成二十六年十一月。最初は何かのお店に活用してもらうことも視野にあったようですが、借り手が見つからず、地元での活用を考えるようになったようです。私たちとしては、掛塚のシンボルとして地域の人たちがここに集えば、地域の一体感が生まれ、掛塚の歴史を学ぶ拠点にもなると考え、掛塚まつり本部などに声掛けをして、一年後の二十七年十二月に初めての公開見学会を開き、実質的な活動を始めました。しかし、「みんなと倶楽部・掛塚」という名称が決まり、年間の計画が立てられて正式な団体として発足したのは、二十八年の四月でした。

「みんなと倶楽部・掛塚」の発足

私たちの会も、この三月で立ち上げから丸五年が経過し、四月からは六年目の活動に入ります。かつて湊町として賑わった掛塚も、今では賑わいの元になるお店も少なくなっていました。そんな掛塚を元気にしたいと立ち上がったのが「みんなと倶楽部・掛塚」でした。旧廻船問屋の津倉家の庭園・住宅が、磐田市に寄贈されたのをきっかけに、地元の方でこれを維持し、守っていくことの呼びかけで作られた団体でしたが、五年間の活動で、その思いを地域に広げることができたのか、振り返ってみたいと思います。

庭園の整備

最初は無人の住宅が雑草に覆われてはいけないと始めた草取りでしたが、その後、庭の東側にはドウダンツツジを植え、花壇も作って、いつもきれいな花がみられるようになりました。また、倉庫の手すりのペンキを塗り、家の中では障子を張り替えたり、来場者がより楽しめる施設を目指しています。また、毎月第四土曜日には、窓を開けて室内に風を通すとともに、室内の掃き掃除、拭き掃除を行って、建物の維持管理に努めています。

庭園の草取りには、地域の皆さまにもお手伝いをしていたらというお願いしていますので、是非ご参加ください。草取りが終わった後で、みんなでお茶を飲みながら昔話ができるような場にした



（草取り・剪定は、毎月第二十曜日、九時から二時間程度です）



みんなと倶楽部 My hometown Kaketsuka



第20号

- P1 掛塚に蒔いた種、芽生えたかな
～みんなと倶楽部・掛塚 五年の足跡～
- P2-3 会員からメッセージ
- P4 様々な反響（皆さまからの励ましのメッセージ）5年間の軌跡

の落語家や講師を呼んでの「掛塚寄席」、掛塚の町歩き、庭園でのお茶会や盆踊り、宝くじの抽選会などを行い、多くの方の参加を得、大いに楽しんでいただきました。

しかし、令和元年の夏は、台風の襲来で中止となり、代わりに後日、旧掛塚郵便局で「福長飛行機展」を二週間開催しました。令和二年も新型コロナウイルスの影響で、イベント開催は見送りとなり、掛塚まつりの日程で公開見学会が行えただけでしたが、この時も津倉家の倉庫で掛塚の懐かしい写真を展示して見ていただきました。

さまざまな反響



この五年間で、多くの方々がみんなと倶楽部・掛塚に関心を寄せてくれました。地元の方だけでなく、掛塚を離れて他県で暮らしている方や掛塚と関わりのある方たちからもいろいろな励ましをいただいています。二、三、紹介してみたいと思います。

毎回「みんなと倶楽部」をお送りいただき、ありがとうございます。楽しく拝読させていただいております。なかでも「ちよつといけ」を読むたびに、私が3歳〜5歳までを祖父母と暮らした掛塚でのことが、つい昨日の事のように甦り、時々胸を熱くしています。

（名古屋市に住むFさん）

本広報紙は以前に比べ全般的に記事の内容や表現力・迫り力が格段によくなっているので非常にうれしく存じます。編集に携わる方々には大変な苦労が伴うと存じますが、本資料はいずれ歴史的なアーカイブとして後世の方々に高く評価されるのは確実と存じます。

（掛塚出身で首都圏に住むKさん）

令和二年も、「掛塚たより」にて遠州小江戸の良き時代の繁栄の跡を学ぶことができました。ありがとうございます。みんなと倶楽部の、歴史遺産・文化を現代の地域づくりに結びつけた活動は、我が大湊町にも貴重な参考資料として拝読しております。

（伊勢市大湊のYさん）

掛塚応援、ありがとうございます

掛塚を応援してくれるたくさんの方たちが、私たちに元気づけてくれます。現在会員は三十人。賛助会員は三十九人にもなりました。掛塚は、江戸、東京と材木で深く結ばれていて、その縁で首都圏に出る人も数多くいました。かつて、掛塚屋台の修理や新築には、町外からの寄付が数多寄せられたことが記録に残っています。そんな伝統が、いまも続いているように思い、有難く思います。これからもよろしくお願ひします。



● みんなと倶楽部の5年間

- H26.11 津倉邸が磐田市に寄贈された
- H27.12 旧津倉邸見学会を初めて実施
- H28.05 旧津倉邸の草取剪定を初めて実施
- H28.06 竜洋西小6年生、旧津倉家見学
- H28.10 掛塚まつり、旧津倉邸一般公開
- H29.10 掛塚まつり、旧津倉邸一般公開
- H30.06 「いじやまいかけつか春」
- H30.08 「いじやまいかけつか夏」（納涼まつり）
- H30.10 掛塚まつり、旧津倉邸一般公開 / 「岡浅次郎展」（於旧掛塚郵便局）
- H31.04 「いじやまいかけつか春」
- R01.08 「福長飛行機展」（於旧掛塚郵便局）
- R01.10 掛塚まつり、旧津倉邸一般公開 / 「郵便の歴史展」（於旧掛塚郵便局）
- R01.11 都市計画家協会静岡支部との交流
- R02.10 掛塚まつり、旧津倉邸一般公開 / 「掛塚の懐かしい写真展」（於津倉邸倉庫）

会員・賛助会員・ボランティア会員募集

「みんなと倶楽部・掛塚」は、湊町掛塚の歴史を刻んだ貴重な文化財を守り、郷土の文化遺産として後世に引き継いでいくことができるよう、旧津倉邸の維持管理に協力しながら、掛塚地区が活気のあるまちになるための活動を展開していこうと考えています。私たちと一緒に活動していただける方を募集しています。是非、ご参加ください。

- 正会員** 毎月の定例会や草取りなどに参加し、企画・運営に携わってもらいます。年会費 3,000 円を負担していただきます。
- 賛助会員** 賛助会費により、会を側面から支えていただきます。会報を毎月お届けするとともに、イベント等もお知らせします。賛助会費は、1口 1,000 円で1口以上でお願いします。
- ボランティア会員** 毎月の草取りやイベント時の準備、片づけなどをお手伝いいただけます。会費は不要ですので、直接旧津倉邸までおいでください。

賛助会員を継続していただける方は、下記の口座をご利用ください。

静岡銀行 竜洋支店 普通預金
口座番号 0418125
名義：みんなと倶楽部掛塚代表 池田藤平

ゆうちょ銀行 店番 238 普通預金
口座番号 5027208
名義：みんなと倶楽部・掛塚

みんなと倶楽部
My hometown Kaketsuka



- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行、斉藤朋之
- 編集 轟田茂巳、山内紀子、鈴木小百合、須田明広、長谷川智

お問い合わせ

ご興味のある方は下記までご連絡ください！

☎ 0538-66-4775 (名倉)

会員からメッセー

五年の活動で見違える津倉家 松山 貞

砂町の旧津倉邸のボランティア活動に参加して、もうはや五年に
なります。当初の印象は家の中は埃が酷く、庭園は草まるけで足の
踏み場もない状態でした。今はどうでしょう、自宅よりきれいになり、見違えるよ
うな津倉邸になりました。ボランティアの皆さんが、五年間継続して活動してくれ
た大きな成果だと思っています。今後は、今迄以上にボランティアの人数を増やし、
大勢で楽しい活動ができるよう、心掛けていきます。是非皆さんのお力をお貸しく
ださい。待つてらよ！



「伝統の町」に住む喜び 鶴藤 孝

浜松よりこの地掛塚に移り住み、早二十八年余、当初は文化、風習等の違いに戸惑
いもありました。しかし現在は、とても穏やかに暮らしています。掛塚の歴史、文
化を知れば知る程、「素晴らしい伝統の町」に住んでいる喜びを実感します。
さらに、誰も（赤ちゃんから老人まで）が気軽に寄れる場所があるといいですね。
今後は『みんなと倶楽部』のメンバーの一人として、より楽しいまちづくりに頑張
つていきます。

昔じはがる今 兼子じ子

以前、掛塚の町歩きに参加したとき、砂町の港屋さんのお蔵には、鯉節が保管さ
れていて、道路を隔てた南側には魚市場があったとの説明を聞きました。そこで魚
屋さんと市場がつながり、掛塚には魚屋が多くあったのもその関係と、食生活から
見える街の繁栄ぶりがみえてきました。実際に目にできる昔の建物が残っているこ
とは、大変貴重であると思いました。「みんなと倶楽部」に参加し
て日も浅い自分ですが、昔の人が残してくださったものと、今現
在とつながって、町が少しでも発展できるものは何かなどと思いつ
つ、津倉邸の花壇のお世話をしている現在です。



飛行機物語は永遠に… 福長 昇

人が空を飛ぶ。飛んでみたい。先人たちのゆめは、1903年12月17日にラ
イト兄弟により動力飛行機が作られ、世界で初めての飛行に成功しました。日本
では、1910年12月19日、陸軍の徳川好敏大尉と日野熊蔵大尉が東京代々
木練兵場（現・代々木公園）でアンリファルマン機を操縦して初めて飛行しました。そ
のことを知った18歳の福長浅雄は、事業地の大阪からすぐさま徳川好敏大尉の
とを訪れて教えを請いましたが、民間人のため受け入れてもらえませんでした。
あまりにも熱心なために無給助手として許されて、地上にての飛行技術や整備技
術の習得に没頭しました。しかし、それだけでは民間人の福長浅雄は空を飛ぶこ
とはできませんでした。自分の飛行機がありません。そこで、大阪に戻りフランス
から一台の飛行機を輸入しましたが、羽根はついていてもエンジンの動力が弱く、
離陸できずに滑走するばかりでした。1916年頃のことでした。

それから、飛行機の操縦と飛行機製作を再度勉強するために、民間飛行家として
名を成していた千葉稟稲毛の伊藤音次郎さんの研究所に入りました。操縦や
製作など数々の技術と知識を得て、天竜3号で1918年7月1日、浜松市中野
町の天竜川原（今の東海道本線鉄橋北側）で郷土訪問飛行を行い、初めて飛行機を見る
人4万人が詰めかけた当時の新聞記事があります。2回の天竜川上空を飛行中
に、飛行機を常駐させる所と滑走する広い場所が目に入りました。そこが掛塚蟹町
の天竜川原でした。地元、掛塚の人達の協力で、1919年に兄や弟の四郎、五郎、
も加わり飛行機製作と民間飛行家を養成する福長飛行機研究所を開設したので
1921年の株式会社福長飛行機製作所に移行時は、空を飛ぶゆめに多くの掛塚
の人達が株主になって応援してくれました。

1922年10月、日本最初の旅客機と伝えられる6人乗りの天竜10号も掛塚
で作られ飛びました。しかし、飛行機は乗客を乗せる認証を受けても、旅客輸送
をする法律が整えられていなかったために東京や大阪間の旅客機としての活躍は成
りませんでした。少し時代が早過ぎたようです。また、ここで育った多くの民間飛
行家達は、その後の日本の飛行界で活躍していききました。1928年天竜川の河
川改修があり掛塚の福長飛行場は終わりを告げました。その後の日本は、戦争の
時代へと入り、飛行機のあり方は軍用機へと進んでいくのです。
今も数々の当時の写真や記録や逸話が残されています。飛行
史を研究する方々が、ホームページに掲載されたり、児童書や
書籍などにも掲載されています。

2019年8月に「みんなと倶楽部・掛塚」の企画で福長飛
行場100年展を国の登録有形文化財である旧掛塚郵便局舎
で開催していただきました。祖父兄弟達のこの100年前の
史実をどのように継いで行こうか、思う日々です。五郎の孫の



私を育ててくれた掛塚 松山忠世

この年になって考えてみると、自然の遊びの中から随分と生きるため
の知恵や工夫を身に付けさせてもらったように思います。そんな自然
が残っているのが、私を育ててくれた大好きな掛塚です。
小学生の頃の遊び場と言えば、夏は天竜川です。「おぼこ」バスサン「い
さだ」捕り等、自然の中から捕るための工夫やコツを覚え、もちろん
先輩にしごかれて泳ぎも覚ええました。冬は河川敷での相撲やチャンバ
ラ、陣取りに明け暮れ、足腰が鍛えられました。自分たちで工夫したスポーツジムです。
秋のまつり囃子は、自然に音楽のテンポやリズムを身に付けさせてくれました。また、上下の
つながりも強く、遊びの中に決まりごとがあり、破れば「はぶせ」、しばらくは一緒に遊んで
もらうことができずしてしまいました。このようにして、ルールを守ることの大切さを教えてもら
いました。



そんな掛塚は、今、過疎化、高齢化が進み、津波の心配も相まって街中の商店は灯を消すよ
うに消えていきますが、これを止める決め手は簡単には見つかりません。掛塚の持つ歴史と文
化を守り、街中の活気を取り戻すための地道な活動を続けていくことが大事であり、その手
助けができればと思っています。未来のために、青少年や若者が参画してくれると嬉しいで
す。

俳句の楽しみ 鈴木剛一

私は退職後、軽い気持ちで俳句を始めました。次第に季節の移り変わりや草花に視野が広
がり、新しい発見があります。今は日課として、句づくりに励んでいます。現在は俳句結
社に入り、新しい友もできて、その句会も楽しみになっています。

みんぼと歩きたい！掛塚の町 斉藤朋之

磐田市堀之内に住む私ですが、「みんなと倶楽部」では「町歩き」担当です。「みんなと
倶楽部」に参加したことによって掛塚の魅力を知り、もっと多くの人に掛塚のこと
を知っていただきたいと思うようになりました。
白羽や川袋などを含めた広い意味での掛塚は、江戸から明治時代の中頃ま
で湊（みなと）で栄え、古い町家が並ぶ歴史の町。船で運ばれて来た
伊豆石の蔵が並び、「遠州の小江戸」とさえ呼ばれた掛塚の町を、み
なさんと一緒に楽しく歩きたいと思っています。



私は、自身が描く絵の中で、この人達の精神を表現していこうと取り組んでいます。そして、
「みんなと倶楽部・掛塚」の活動のお仲間に加えさせていただきました。

磐田市見付の鳥人幸吉から日本航空史の黎明期の福長飛行場や太平洋戦争中の中野学校
袖浦飛行場や終戦時の緑十字機不時着の鮫島海岸と遠州掛塚地域は飛行機物語の宝庫な
のです。

「子供時代」は楽しかった 松下 孝

私が「みんなと倶楽部」に加入したのは、何とんでも「津倉幹夫君」と幼馴染で、よく遊
んだ仲であったからだと思います。お庭での「かくれんぼ」や庭木に登り「糸電話」を張
って遊んだ事、又、薬になるとかでお蔵の前の「葉蘭」の花を探した事などが思い返されま
す。
また、津倉家の中の雰囲気というか、匂いというか、何かが私の育った家の雰囲気似て
いるので、何か懐かしい思いがあるからでしょうか。私の家は、既に母屋は改築され、今
残っている建物は「棟札」によれば、大正拾年に建てられ、家内では「新座敷」と呼んでいる
建物だけになりました。この建物は銅書きで釣天井なので、地震の時はこの部屋に集まれ
ば助かる、というのが家内の約束事で、実際に昭十九年の東南海地震の時はその部屋に、と
兄達は言っていました。

閑話休題、また津倉君との思い出は、庭の井戸の撥釣瓶（ハネルゴ）で遊んでいたら、桶の
部分がはずれて水面に落ちてしまい、家人達に迷惑をかけた事、また、その井戸の周囲の
玉砂利の間に噴水装置が有り、夏の日、ビッシヨリになって遊んだ楽しい思い出・・・。
しかし、津倉君の家に遊びに行き、一番驚いた事は「お台所」が広くて明かかった事です。
私の家の作りとしては、津倉家と同じように入口の「お店」を通り奥に進むと「お勝手（台所）
」になるのですが、家の「お勝手」は四連の「お竈（カド）」さんが有り、多人数の為の大きな
調理台や「流し」があり、それらが皆煤けて黒光りしていました。勿論、床は張られて
はおらず、「三和土」でしたから、冬は寒く暗さが一層増していました。ところが津倉君の
家の台所は、窓から日が差し込み明るくて、床が張られていて、本当にびっくりしました。
戦後、アメリカの豊かな生活を夢みさせた「ブロンディ」の映画に出てくるような台所だっ
たからでした。

家人の中では、「おばあさま」が一番存在感がありました。「おばあさま」の前に行くとい
然と大人しくしてしまふ。しかし、怖いお方ではなく、母の話をしてくれたのを覚えてい
ます。でも、後から考えると、厳しい方ではあったと思います。実際、こんな事が有りました。
後年、本人は全く覚えていないとの事ですが、四年生の「学芸会」の時、幹夫君が舞台で一人、
「謡曲」を披露した事が有りました。袴を付けて見台を前に、見事に一曲謡いあげたのを
覚えてます。で、あの「お茶室」に、謡曲の「謡本」がケース一杯に蔵されているのを見た時、
往時の幹夫君は大変だっただろうな、と苦勞が忍ばれました。

